

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

鯖江市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和5年12月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1.多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 つつじバス年間利用者数 14.4万人(H30年度)→17万人(R8年度)	・利用者ニーズにあったつつじバスダイヤの設定。 ・利用者利便性が向上、市民がバスに愛着が湧くような利用促進策の実施。	福井鉄道㈱から提出される利用者数データを基に算出	令和4年4月よりつつじバスのダイヤ・路線を大きく改正し、令和4年度のつつじバス乗降者の実績は前年度比107%で推移。令和5年度(令和5年4月～12月)についても、さらに増加傾向であり、対前年比120%となっている。 令和4年度実績：113,806人 令和5年度実績(4月～12月)：100,616人 (参考データ)令和3年度実績：106,351人	ダイヤ改正を行い1年9ヶ月が経過し、新しい路線および時刻が利用者に着着してきた。ただ、依然としてバスの効率的な使い方を知らない市民もまだいると感じているため、新たな利用者層獲得に向けた取組みを行うことで目標を上回ることも可能と見込んでいる。	-
1.多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 福井鉄道福武線市内駅利用者数 47.4万人(H30年度)→50万人(R8年度)	・事業者と協働で利用促進イベント等の開催。 ・市内イベント等にてブースを設け、利用促進PRの実施。	福井鉄道㈱から提出される利用者数データを基に算出	市内イベント等にてブースを設け、利用者促進チラシ等の配布を実施、また市内駅を中心とする神明駅にてイベントをR5.11に実施。利用者実績は回復傾向だが、コロナ禍前には届いていない状況である。 令和4年度実績：428,515人 令和5年度実績(4月～9月)：225,063人 (参考データ)令和3年度実績：407,237人	次年度においては、神明駅のみで行ったイベントを市内6駅周辺同時開催のイベントを実施予定。イベントの実施時期についても沿線他市のイベント実施日に合わせて実施するなど人の流動性を生むような工夫をする。	-
1.多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 利用者一人あたり公的資金投入額 552円/人(H30年度)→540円/人(R8年度) ※利用者一人あたり公的資金投入額：つつじバスの運行経費における国県補助金と市の負担額をつつじバス年間利用者で除した値	・効率的な運行体制確立による市の負担分を抑える。 ・利用者数増加に伴う利用者一人当たりの公的資金投入額の削減。	市決算資料より市の負担額および国県からの補助額を基に算出	人件費高騰およびその他運行委託にかかる費用がコロナ禍前と比較して増幅していることから、目標に対して大きく未達の状況である。 令和4年度実績：847円/人 令和5年度実績：未測定(備考のとおり) (参考データ)令和3年度実績：886円/人	つつじバスの利用者数増加に向けた施策を行う一方、市の負担額を抑えるため、新たな広告収入媒体の設定(車両ラッピング広告)を行う予定である。	R5年度の市決算が完了していないため、本年度の分析は現時点では出来ない。
2.まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現 公共交通が充実していると感じている人の割合 58.7%(R元年度)→80%(R8年度)	・つつじバス対象利用者に対して引き続き利用者無料証の発行。 ・キャッシュレス化の導入検討、主要乗継地点でのバス発着情報案内の設置。	第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の調査結果より	-	-	第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間がR8年度までであり、R6年度時点でアンケートを行うことから、その際に達成状況の確認を行う。
2.まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現 公共交通集落カバー率(鉄道、路線バス、コミュニティバス) 95%(R3年度)→97%(R8年度)	・必要に応じてコミュニティバスの新規バス停の設置検討および路線の一部変更に伴うカバー率向上。	町内毎のバス停の位置を基に確認	令和4年4月につつじバスのダイヤ改正・路線を改正したことにより、バス停の廃止・新設、路線の再編を行うことで公共交通集落カバー率の向上。令和5年度については令和4年度と路線およびバス停位置の変更がないため、カバー率の変更無し。 令和4年4月時点 公共交通集落カバー率 96% 令和5年4月時点 公共交通集落カバー率 96% (参考データ)令和3年度実績：95%	引き続き各地区からの要望等も踏まえながら、バス停の追加、路線の一部変更を行っていく中で、R8年度までに目標の97%を達成する。	-
3.観光・ビジネスで訪れた人にもやすく、鯖江市の魅力を高める公共交通の実現 つつじバスポータルサイト(バスどこサービス)アクセス数 15.7万回(H30年度)→16万回(R8年度)	・バスどこサービスの利便性を市民および来訪者にPRを行い知名度アップを図る。	市の広報担当課に確認	令和5年度についてはダイヤ改正が無かったこと、また最も利用者が多い路線である循環線をパターンダイヤ化し、利用者にとってダイヤの定着が図られたことからアクセス数が減少したと想定。 令和4年度実績：147,504回 令和5年度実績(R5.4～R5.12実績)：72,707回 (参考データ)令和3年度実績：126,936回	他SNS(InstagramやX(旧Twitter))との紐づけによるアクセス数増加を図る。	-
4.市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現 公共交通利用促進のための市民団体の活動回数 12回(H30年度)→15回(R8年度)	・各市民団体と協働し、公共交通の利用促進施策の検討を進める。	各市民団体の活動回数にて算出	R5.6およびR5.11に市内イベントおよびイベントを開催し、顔出しパネルの設置や公共交通を利用してもらう取組みを行い、親子連れを中心にPRを行った。 令和4年度活動実績：6回 令和5年度活動実績(R5.4～R5.12)：6回(今年度残りに見込み+2回) (参考データ)令和3年度活動実績：3回	今年度に引き続き、市内イベントに積極的に参加を行い、その時々々の公共交通のPRポイントを継続的に行う。	-

(記載に当たっての留意事項)

- ・本様式中、表題の「(○年○月～○年○月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。